

教育

一般社団法人 現代教育研究協会

会 報

53

題字 榎本頼兼氏

(平成 8 年～平成 20 年 京都市長)

発行所

一般社団法人 現代教育研究協会

〒605-0981

京都市東山区本町4丁目131

クリスタルハイツ1F

印刷所 株式会社 洛陽

現代教育研究協会の新たなステージ

会 長 梶 村 健 二



平素は
現代教育
研究協会
の様々な
活動にご
理解とご
協力を頂
き、誠に

ありがとうございます。
平成二十九年度は、協会にとりまして大きな転換の年でありました。一つには、協会に對しまして大変お世話になった三人の方々が、お亡くなりになったことです。七月には、日帰り研修や一泊研修で

お世話になった東山観光社の関社長、七月末には長年顧問をお勤めいただき、インターナショナルアカデミーを主宰するなど幅広いご活躍をされてこられた旅館「銀閣」の森社長、さらに今年三月には西本顧問がお亡くなりになりました。大変残念でなりません。これまで協会がお世話になったことを振り返り感謝申し上げます。ことに、お三人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

や研修会場や更には懇親会の会場として様々な形で、ご無理をお願いし、お世話になってきた旅館「銀閣」が諸般の事情で来年度からお借りすることができなくなりました。これまで森社長のご厚意で大変便宜を図って頂き、協会として会場探しなどの仕事はほとんどしなくてもよいという形で来ることができました。まことにありがたかったです。感謝の気持ちでいっぱいです。

に迫られることになりました。昨年末から緊急の理事会や役員会を何度も開催し、次の四案についていろいろな観点から検討を進めてきました。

- ①案 これまで通りの活動を継続する
- ②案 事業を縮小して継続する
- ③案 活動を一時休止する
- ④案 協会を解散する

これまでの協会の歴史を大切に、何よりも会員の皆様のご期待に沿えることを第一に考えてまいりました。幸い、協会の活動にもご理解のある方に、ご理解をお願いして他団体との日程調整は必要なもの、部屋をお借りすることができ、継続的に事務所や理事会の開催場所を何とか確保することができました。理事会で協議の結果、当分の間これまでよりも研修会の開催を一回少なくして年三回とし、研修会場は公共の施設を借りるようになり、また懇親会場もその都度確保するというにし、次のような形で継続して活動していくことを決定しました。

1. 研修会を年三回とする。(五月は総会を兼ねる。八月、一月は懇親会も開催) 日帰り研修は来年度は見送る。
2. 研修会場や懇親会場はできるだけ公共施設を利用する。
3. 年会費は六千円から五千円に減額する。
4. 可能な限り経費の節減に努める。
5. 今後五年をめどに協会のあり方を見直す。

五月の総会では以上の内容を皆

様にお諮りし、安定的に活動が継続できるようにしていきたいと考えております。会員の皆様方におかれましてはこうした事情をご賢察の上、これまでもまして協会の運営、活動にご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。このような形でこれまで四十年にわたり森藤吉先生の教育に寄せる強い思いをもとに協会が歩んできた道を閉ざすことなく、これからも継続することができれば、これからの協会に対する熱い思いや期待にこたえられるべく、これからの形を目指してまいります。

また、私たちの協会と同様な活動を展開しておられる教育に関係する研究団体と相互の研修会に参加できるような緩やかな連携を図ることができればと考え、調整を行ってまいります。このことで協会としての活動により幅と奥行きができていくのではないかと思います。総会で具体的な提案を行い、ご賛同いただけるようにしてまいります。

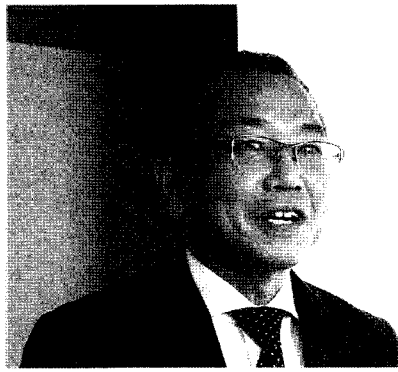
しばらくの間は会員の皆様方にはご不便をおかけすることになるかもしれませんが、理事会を中心にして精一杯充実した内容で活動が出来るよう努力してまいりますので、皆様方からも忌憚のないご意見を賜るとともに、温かく見守っていただき、一緒になって「現代教育研究協会」が会員にとってより身近な学習の場として、新たなステージで継続して活動していくことができますようご支援くださることをお願い申し上げます。

第一回講演会 平成二十九年五月二十日(土)

京都市の教育と新しい学習指導要領

京都市教育委員会 指導部長

佐藤 卓也氏



平成二十九年度の第一回講演会は、現在京都市教育委員会指導部長の佐藤卓也先生をお迎えし、表記の演題で、ご講演をお願いしました。協会の活動の柱には教育があり、学校教育の現状や課題を学ぶということも重要であると、毎年の講演や研修活動に位置付けております。佐藤卓也先生は、昭和五十八年に京都市立中学校の教員として採用された後、平成十七年には久世中学校校長と豊富な学校現場を経験されており、その間にも教育委員会各課の指導主事等を歴

任され平成二十八年には学校指導課長、そして現在は指導部長として京都市教育の第一線に立たれております。そして、現在は文部科学省より新しい学習指導要領が告示され、今後、幼小中高と先行実施を含め順次実施を迎えてゆく時期でもあります。

豊富なご経験をもとにした講演の冒頭の部分を中心にして、先生の意にそぐわない点も多々あるかと思いますが、ご報告させていただきます。

新しい学習指導要領

多くの先輩方の前でお話すると大変緊張しておりますが、限られた時間の中で前半は新しい学習指導要領、後半は京都市の教育についてお話をさせていただきます。

学習指導要領の改訂スケジュールですが、二十九年度は新しい学習指導要領の周知徹底を図る時期であり、小学校は三十二年次から全面実施の予定ですので来年から先行実施、三十一年度に教科書採択の予定です。ただ道徳について今年が道徳科の教科書の採択になっており、三十年から全面実施

されます。皆そうだと思いますが、生まれて初めて道徳の教科書というものを手に取りました。道徳の教科書には八社が手をあげました。中学校の道徳科はどうなるかというと、一年遅れで来年教科書の採択、再来年から授業開始となります。今、道徳科の話をしてしまいましたが、道徳以外の本体部分については幼稚園は来年度から、小学校は前述しましたが三十二年次、中学校は三十三年次から、高等学校は三十四年度から年次進行で実施という予定です。

改訂のねらい

改訂は十年に一度です。で話題にもなるのですが、今回の改訂は、今までにない改訂であると文科省はいっています。普通文教科省から中央教育審議会に諮問し中教審が大枠をまとめて各教科の部会へという流れなのですが、今回は特別な部会がその間に存在し、キーンとなる言葉、アクティブラーニングとか開かれた教育課程というような言葉をマスコミに発信されました。中教審は、二十三年の社会即ち今回の学習指導要領で実施された教育の十年後がどのような社会になっているのか、日本は、そして世界は、ということ、その時の社会に通用する教育でなければならぬと考えたのです。未来の社会では人工知能が進化して、人間が活躍できる職業がなくなるのではないかと。今、学校で教えていることが通用しなくなるのではないかと。ということも併せて考えられたということです。

さて、日本の現状はどうでしょう。かつては一人当たりのGDPは世界第二位でしたが現在(二十二年)では世界十位です。子どもたちの未来についても、欧米の学者のなかには、二十三十年には現在ある職業の多くが無くなっている、今は存在していない職業に多くの子どもたちが就くことになるという学者の予測もあります。しかし、悲観をしているのではなく、情報化、グローバル化が進む中で、子どもたちが未来の創り手であるための必要な資質、能力を育てていかねばならない。そういうことを考えた日本の教育の未来像を示したということです。前回の改訂では「生きる力」という言葉がクロージングアップされました。今回は生きる力を学校全体の中でどうやって子どもたちに付けていくということ、(……)のあと、今回の学習指導要領はこの三月に発表されたばかりであるが、中教審の答申などから考えられる、今までの指導要領に比べて大きく変化した点、あるいはあらたに取りあげられた重要な視点などの具体的な例、一より良い社会を作る「資質能力」「アクティブ・ラーニング」をとりあげての熱心な説明がつづく……)

学習指導要領とは何か?

そもそも学習指導要領とは一体何かということですが、各学校が教育課程を編成するための基準であるということを入れた上で、中学校であれ殆んど同じような教

育課程、時間割の編成であったが、今回は一歩進んで、それぞれの学校が地域の特性や子どもの実態に応じた教育課程を考えていきたいと思います。ということになっている。時間割で国語が何時間というようなどことは決まっているからそこは触れないけれど、子どもたちの資質能力の育成や学校教育目標をもっと前面に出して、自分達の学校ではどんな子どもたちを育てていくのかを、改めて高く掲げて教育課程を組んでいきたいと思います。カリキュラム・マネジメントということ、(……)のあたりから、今回改訂された学習指導要領の内容について、資料やスクリーンを使い「改訂の方向性として、何ができるようになるか、何をどのように学ぶか」「これからの教育課程の理念として、社会に開かれた教育課程」「育成すべき資質・能力の三つの柱」「主体的・対話的で深い学びの実現、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について」とやや専門的な内容を分かりやすい表現、事例をあげながらのご説明がつづく……)

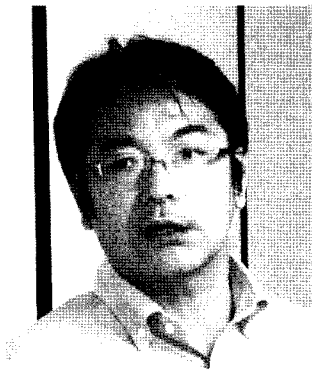
……新しい学習指導要領について、どこがどう変わり、そのことが子どもたちの育成にどう反映し、改善されていくのかについて、先生の熱心なお話が続いていき、後半の京都市の教育改革へとつづいていきます。紙数に限度がありご講演の内容をお伝えできませんが、先生の丁寧なお話に盛大な拍手が送られました。

第二回講演会 平成二十九年七月二十二日(土)

生け花に見る自然観

池坊短期大学教授

土屋 郁 剛氏



第二回の講演会は、池坊短期大学教授の土屋郁剛先生をお招きしました。先生は華道家元池坊免許「華督」、立花鑑興相伝であられ、国内に限らず、海外においても、生け花の作品発表、指導に日々あたっておられます。またご講演の時期は、映画「花戦さ」が丁度公開されている時期でもあり、映画を鑑賞してから講演を聞くという会員も多く、講演会も大いに盛り上がりました。

はじめに

今日ご参加の男性の皆様方の中で、生け花をいけたことがあるという方は殆んどおられないと思います。華道はもともと男性社会のものでしたが、今から百数十年前、明治二十何年かに京都女学校の講師に池坊の御家元が任命され、婦女子の教育の一環として正式な科目となり御家元が直々に教えられました。そしてこのことを全国に広めていこうということになり、女子のたしなみ、良妻賢母の一環としての生け花が広がっていき、華道は女性のものとなりました。今日は生け花の今に至るまでの過程と生け花とはどういうものかを知っていただく機会になればと思っています。

池坊の名の由来

池坊は華道家元です。華道家元とは華道全部のという意味です。そう名乗れるのは池坊だけのことです。(ここから映像をスクリーンに映しながら、お話が始まります)。これは、皆さんご承知の六角堂です。いけばな発祥の地とさわれていますが、正式な名称は紫雲山頂法寺といい、西暦五百八十七

年、四天王寺建立のための用材を求めて山城の地を訪れた聖徳太子が霊夢によって六角形の御堂を建て、自らの護持仏である如意輪観音像を安置したと伝えられています。六角堂(本堂)の北側には美しい池があり、聖徳太子が沐浴した池の跡と伝えられるところで、その池のほとりであった僧坊が「池坊」と呼ばれるようになりました。聖徳太子に仕えていた小野妹子が出家して専務と名乗り、池坊の道祖となったと、歴史的検証はされていませんが寺伝に伝えられています。

室町時代、六角堂の執行(しぎょう)として寺の実務を担っていた池坊は、毎日本堂にある如意輪観音に花を手向ける仕事をしていたと伝えられています。そして専慶・専応らが生け花の成立期に大きな活躍を見せ、華道家元の地位を確立していきました。執行は現在の住職にあたり、家元とともに代々池坊が務めています。池坊の歴史で最初に出てくるのが専慶です。東福寺に伝わる文書に今から五百五十五年前、専慶が近辺に数十種の枝を立て、町衆がこそつて見に来たというものがあります。池坊では今年が五百五十五年の節目にあたるということで映画「花戦さ」を製作した次第です。

立花(りっか)の起こり

生け花が起こる前、花を生けるという習慣は一般にはありませんでした。切り花を家の中に持ち込み観賞するという行為が生まれたのは鎌倉時代以降といわれています。

す。それまでは軒先に船のような形の器を吊るしたり、庭先に今でいう盆栽や盆景といわれるもう一つの自然を作ったりというようなことはあつたそうです。仏教伝来とともに花を手向ける習慣が入ってきて、日本古来からの自然に対する畏怖、尊敬の念が一体化していったと言われています。その名残りとも思われるものが諏訪大社の御柱祭などにみられます。柱を立てるということでは祇園祭の山鉾にも柱が立っています。七夕の時に笹を立てる、お正月に門松を立てるというように門松を立てる、高いもの、大きいもの、時間の経過が人の命を越えてあるもの、そういったものに人は心を寄せ、憧れる。仏教が日本に入ってきた時は、仏の供養としては花をまき散らす散華(さんげ)というようなことであり、花を立てるという習慣はなかったといわれています。立花(りっか)は、室町時代の後半から江戸時代の初めにかけて完成した、最も伝統のある生け花のスタイルです。

古来より神仏へ供えられてきた花は、室町時代になって邸宅を飾る花(座敷飾り)へと発展していき、また座敷飾りの花として、真(一本)と下草で構成される「立て花(たてはな)」と呼ばれる生け花が誕生します。立て花は、客人をもてなす場に用いられ、室町時代の後半に、「立花(りっか)」へと発展しました。(……鳥獣戯画の中にある花葉、池坊に伝わる大巻(おおまき)といわれる池坊にとつてのバイブルのようなもの、

実際の生け花を立てた数多くの写真等の映像を見ながら、講師の先生の熱心なご説明が続きます)

花戦さ

今年、池坊が製作に関わり、公開した映画「花戦さ」は、池坊専好が豊臣秀吉に前田利家邸で披露した「大砂物(幅七二メートル、高さ三・五メートルある立花)」に着想を得た物語です。映画は時の権力者、豊臣秀吉に刃ではなく、「花」をもって立ち向かう姿が描かれています。

江戸時代に編纂された「続群書類従」には、豊臣秀吉の大名御成に關して、池坊専好が座敷飾りの花を担当した記録が二つ収められています。うち一つが「文禄三年前田邸御成記」で、文禄三年(千五百九十四年)に秀吉が大坂の前田利家邸を訪れた時の記録です。間口四間の床の間に四幅対の軸が掛けられ、その下に幅一間(一・八メートル)に奥行き三尺(九十七センチ)の六亀の砂鉢に大松の真が据えられ、描かれた二十正の猿が宛も松のなびき枝にとまっているように挿ざられていて、「池之坊一代出来物」と風聞されたと伝えられています。

……先生の話は、この後、花を立てることで何を表現するのか、上古から現代にいたる花の形の時代による移り変わり、花を生ける心とは、花を鑑賞する方法、新しい空間を創造するいけばな、自由花へと続き、参加者一同の盛大な拍手の中、講演を終えられました。

第三回講演会 平成二十九年八月二十六日(土)

和紙について 製紙現場から

黒谷和紙協同組合 理事長

林 伸 次氏



在となっています。

和紙協同組合理事長の林氏は京都精華大学を卒業、その後独立、合の研修生となり、その後独立、二千年には京都府より「京もの技術後継者」の認定を受け、二千年、京の若手職人海外派遣事業に選ばれてイタリア研修に参加、二千年「京の若手職人総合技術コンクール」入選、「京もの工芸士」に認定され、海外においてもデモンストレーション、ワークショップなどを重ねられておられます。ご講演は写真や資料をスクリーンに映しながら進行され紙数の関係ですべては紹介できませんので、お話の最初の部分及び概要を紹介いたします。

はじめに

私は大学を卒業してから黒谷和紙に携わることになり職人歴は二十二年です。もともと綾部生まれですが、大学卒業後綾部に戻り、職人になりたいという気持ちで強く、絵を描きながら百姓をしたいという思いでいましたが、それだけでは暮らしていけません。とりあえず冬の期間の職人としての仕事を探していたら偶然綾部に

は黒谷和紙があったという経緯で和紙職人としての道を歩み始めました。今はどっぷりとハマってしまつて、畑もせず絵も描かず、絵を描く人のための紙を作っているところなんです。大学ではいろいろなことを教えられ、そこに戻ることはないと思つていましたが、三年前から伝統工芸の講座、和紙についての授業などに関わっています。手作業が好きで物作りがしたいということでこうしてやってきましたが、組合の皆さんが高齢化してきて、三年前から理事長を仰せつかりました。自分自身は紙漉き作業が以前のように出来なくなつて、早く誰かに役を渡して紙を漉きたいと思つています。

人前で話をするのは得意でないという性格でしたが、現在は、和紙を広めてより多く知っていただかないと自分達のやっている仕事への理解が深まらないだろうというので、今回のような機会を与えられ喜んでいきます。今日は手漉き和紙についての技術面について話を中心にお話しします。

製作工程

(一) 京都の北部には、昔から三十分から四、五十の手漉き和紙産地がありました。そこには生活様式そのものに和紙が組み込まれていたということがあるわけですが、現在産地として残っているのは二か所、そのうち個人工房ではなく集団でやっているのは黒谷だけです。

す。黒谷では、楮という植物を主原料として和紙を作っており、その製作工程を今からスクリーンに映していきます。

① 和紙の原料としての楮……和紙の原材料には、楮・三桧・雁皮・麻などがありますが、黒谷では材料として手に入れやすく、育てやすい楮を畑に植えて栽培しています。楮は挿し木や根を植えて殖やすのですが、一年で三メートルもの長さに成長するので以降毎年収穫します。

② 刈り取り……冬になり葉の落ちた十二月ごろから楮を鎌やのこぎりですり取り取っていきます。

③ かごむし(こしき)……楮を「こしき」(樽のような入れ物)に入る長さにカットし中に詰め、お釜にかぶせて三時間ほど蒸します。関西では楮のことを「かご」といいます。

④ かごへぎ……蒸しあがった楮から、皮を一本づつ剥いていきます。

⑤ かごそろえ……剥いた楮の皮の一番表面の皮とキズを包丁でとり、白皮(しろかわ)にしていけます。この作業が手漉き和紙製造工程ではもっとも多くの時間がかかります。

⑥ 楮煮……白皮をアルカリ性の熱湯で一時間半ほど煮ます。

⑦ みだし……やわらかく煮上がった楮を水にさらし、あくをとりながら、楮に残っ

ている傷やごみの除去(チリヨリ)を手で丹念にとっていきます。

⑧ 叩解……みだし作業の終わった楮を、餅をつくようにして約一時間たいたいで細かくほぐしていきます。

⑨ 紙漉き……ほぐして細かい繊維状になった材料(紙料)を、舟と呼ばれる水槽に入れ、よく攪拌し、竹ヒゴを編んで作られた簀ですくいあげる。その際に、ネリと呼ばれる植物性粘滑剤を添加することで、簀から水の落ちる速度を調整し、和紙独特の揺りを加え繊維をからめながら平滑で強靱な紙をつくってゆく。これが流し漉きと呼ばれる製紙技法で、ネリの材料にはトロロアオイの根やノリウツギがよく使われています。

⑩ 乾燥……幾枚も重ねられた湿紙を圧搾し、水気を絞った紙を一枚ずつめくり銀杏やトチなどの木の板に刷毛で貼り付けて乾燥させて、和紙は完成していきます。

⑪ 加工……一部の紙は染めや裁断をし、名刺いれやクッションに加工する。

⑫ 製品加工……便箋や封筒、名刺入れ等、様々な製品があります。

……こういった映像を交えた詳細な説明と、作業のポイントや苦労する点、和紙作りの担い手の減少というような現在の様々な問題を含めたお話が続いたあと、時代

(二) 京都の北部には、昔から三十分から四、五十の手漉き和紙産地がありました。そこには生活様式そのものに和紙が組み込まれていたということがあるわけですが、現在産地として残っているのは二か所、そのうち個人工房ではなく集団でやっているのは黒谷だけです。

による和紙の用途の移り変わり、黒公和紙の増減、生簀を紙三重簀の推移、特製二重簀や校印、今後の和紙の発展を希望……と熱意を講演を交わされた。

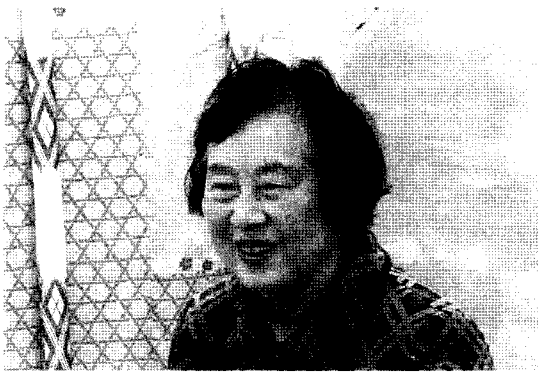
第四回講演会 平成三十年一月二十七日(土)

北政所おねの生涯とその役割

京都橘大学名誉教授

田端 泰子氏

年が明け、平成三十年を迎えた第四回の講演会は、京都橘大学名誉教授の田端泰子先生から表記の題の講演をしていただきました。先生は日本の歴史学者で、日本中世史、女性史を専門にされています。日本の中世を生きた女性は先



生のご専門の領域であり、豊臣秀吉の正室おねについては先生のご著書もあります。おねについては、秀吉の妻として私たちもよく知っている名前ですが、一体どういう人でのような人生を送ったのか、その正確な人物像について学ぶ機会とあって会員も大いに期待し講演に臨みました。資料として貴重な古文書(コピ)が載っているレジメも用意されたご講演の最初の部分と全体の簡単な概要を紹介します。

はじめに

大学の名誉教授となつてからも週に一回教壇に立ち「日本女性史特講」という日本の女性史、それも原始・古代から現代までの女性のだった歴史を学生に講義しています。どうしても内容が駆け足になります。自分の専門の中世から近世というあたりは割りときわしく取りあげています。試験と

して学生に三つのテーマをだしました。ひとつは「おねの生涯とその役割」、そして「江戸時代の農村における女性の生き方」、もうひとつは「大正デモクラシー」という三つの中から一つを選んで論述しなさい、という文章を書く試験です。そうするとおねについて書く学生が八割ぐらいになります。自分も力を入れて話していることもあるのかと思ったりもしていますが、おねという人物はぜひぶん学生にも興味があるようにです。今日はそのおねについての話を皆さんに聞いていただきたいと思っています。皆さんのお手元のレジメに沿ってお話を進めてまいります。

おねの生涯と役割

……おねという女性の生涯と日本の歴史に果たした役割について、準備されたレジメ(資料)を参照しながら、丁寧なお話が続きます。先生のお話を限られた紙数ではご紹介することができませんのでレジメに柱立てされた項目を以下にあげていくことで、当日の先生のお話の幾分かを感じ取っていただけたら幸いです。

1. 「北政所」の実名と生年には諸説あり、どれが妥当と考えられ、その理由は？

「ねね」「おねい」「ねい」「ね」「おね」と諸説あるが「おね」(秀吉からの手紙のあて名)で生年も天文十一年、十七年、十八年、と諸説あるが天文十一年が妥当

2. おねが生まれた実家の杉原

家の略系図

おねの甥にのちの小早川秀秋、叔母の七曲の夫に浅野長勝(弓衆)

3. おねと木下藤吉郎の結婚の様子

おねの母(朝日)が藤吉郎の身分の低さ(足輕)に反対するが浅野長勝夫婦のとりなしで成立。「土間」に簾搔わらに薄縁を敷いて「行う」。

1. 藤吉郎二十五歳、おね二十歳が妥当

長浜時代のおねについて信長の浅井氏攻略に対する功績で江北三部を藤吉郎が押領する

・おねに宛てた藤吉郎秀吉の書状：秀吉は町人の年貢免除をやめる方針であったのをおねが反対してとどおり免除を続ける
・おねに宛てた織田信長の書状：おねの挨拶に対する礼と藤吉郎秀吉一族の「上様」たれと訓戒する。

5. 「関白」と「北政所」

秀吉の関白への昇進に伴い北政所となる。おねの役割が急激に拡大する。

天皇家との日常のおつきあい、養子、養女の教育、家臣や女房衆の統率、大名家への気配りやその人質との交流などを行う。

6. 天正十八年の後北条攻め

おねを通して、淀殿を小田原に呼び寄せる。正室と側室の明白な序列

7. 天正二十年のおねへの所領給与
大名格の石高をおねに対して生前贈与する。秀吉、この年名護屋へ。

8. 慶長三年の醍醐の花見(秀吉の亡くなる年)
興の順番がおねを先頭に、淀殿、松の丸、三の丸(信長の娘)……

9. 後家尼時代
京に住みのち高台寺に入り、秀吉の菩提を弔う役割

10. 大阪城落城後のおね(落城時おね七十二歳)
「大坂の御事は、なにと申候はんんすることの葉も御入候はぬ事にて候」

11. 元和元年五月十九日付けの伊達正宗への書状
北政所おねの役割
A 秀吉の正室として B 後家尼として の二つの役割を豊臣政権の「かかさま」として果たした。没年は元和十年、八十一歳。

……私たちが大河ドラマなどを通して持っているおね、北政所についてのイメージが先生の講演、古文書資料などをとおして浮かび上がってくる実像との違いが面白く、講演を終えられるころには、参加者の心にもっともお話を聞きたいという声上がる中、盛大な拍手が送られ講演を終えられました。



秋の日帰り一日研修 黒谷和紙工芸の里（紙漉き体験）と 伊根湾めぐり遊覧船の旅

秋の日帰り一日研修

平成二十九年十一月十六日（木）

平成二十九年秋の日帰り研修は、第三回の講演会を取りあげた京都府綾部市の黒谷和紙を訪ね、和紙の「紙漉き体験」をしました。京都駅八条口のアバンティ前は、秋晴れという言葉がぴったりの好天に恵まれ、定刻八時三十分にはバスは出発、九時には京都縦貫道に入ります。バスから見える亀岡の町は深い霧に包まれ、周辺の山々には、ところどころ赤や黄に色付いた木々が見え秋を実感します。途中の道の駅でトイレ休憩をとる頃、天候は秋晴れから曇り空に変わり、バスから降りるとさすがに寒く、山々の紅葉のスペースが大きくなり、目立つようになっています。十時半に閉校となった小学校施設を改装し開設された黒谷和紙工芸の里に到着です。

黒谷和紙の由来や実際の製作工程については、第三回の講演会の記録を読んでいただければと思いますが、私たち一行が実際に取り組んだのは製作工程の中の「紙漉き」と呼ばれる部分で、一人一人がハガキ八枚分の大きさの簀桁（すげた）で漉きました。講師の方の丁寧な指導のもとやってみるのですが、同じような厚さにするのがなかなか難しく、二度三度とやり直す方もいます。冷たい水の中に手を浸けての作業であり、和紙作りの大変さを知ることの一端にもなりました。体験の後は大きな簀桁を使った実際の紙漉き作業を見せていただいたり、黒谷に伝わる和紙づくりの数々の道具や

黒谷和紙の製品、和紙を使った工芸品などの展示を職人の方に丁寧に説明していただきました。売店も建物内にあり、書道用品や小物を買ったりして黒谷を後にしました。

バスは再び京都縦貫道に戻り、与謝天橋立ICで下り、宮津湾沿いの国道を伊根の方向へ向かいます。途中、天橋立が目の前に広がる橋立大丸のシーサイドセンターが昼食会場です。新鮮なお造りとせいろ蒸しの美味しい御膳をお腹いっぱいいただきました。そして再び伊根に向かい、伊根湾めぐり遊覧船の乗り場に到着、遊覧船に乗り込みました。参加者が一様に驚いたのは、船の周りを飛ぶたくさんのトンビの群れです。カモメはどこへやら、猛禽類のトンビが船に附いてくるのにはびっくりしました。伊根の舟屋は多くの方が一度は訪れたことがあるような場所でしょうが、海の上から舟屋を見ると言う体験はまた別の発見もあったのだと思います。

和紙の紙漉き体験、伊根の舟屋めぐりという一つを無事に終えて、帰路につきます。途中、お土産や夕食にと名産品や新鮮な魚介、干物などの買い物に複数の店舗に立ち寄り、予定通りの時間に京都駅八条口に皆、元気に戻ってきました。



編集後記

会長挨拶にもありますが、協会の事務所、講演会場として旅館「銀閣」を森清史顧問のご厚意で使わせていただいておりますが、二十九年七月末に森顧問の突然のご逝去があり、諸事情で銀閣を出て新しい事務所へ移転することになりました。三十年度より協会の事業等にも変更部分があり、五十三号の会報の発行も従前より一か月遅れました。ご理解の程をお願い申し上げます。